

Il passato

根岸大輔

塗油したギアが黒光って
車輪が空転した途端に
宙に舞って倒れたら
堆積した汚れが
過去を語り始めた

丑の刻に残る
見慣れた歩道の裂け目
が与えた教訓は
アナクロニズムに沈んでいく

葡萄茶色の夕日を背に
哀愁の川に浮かぶ経木が
朽ち果てた時計の針
に食らいつこうとする
鮎を包んだ